

FJ-BT-DISP

1.はじめに

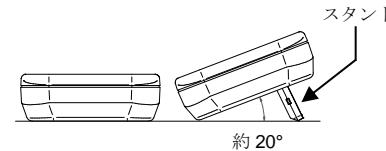
FJ-BT-DISP は FJ-BT シリーズ専用の外部表示器です。FJ-BT シリーズのはかり(本体)とペアリングすることで通信することができます。FJ-BT-K シリーズには使用できません。

2.別冊の取扱説明書

FJ-BT-DISP のより詳細な機能や操作手順は、別冊の FJ-BT シリーズの取扱説明書で説明しています。
弊社ホームページ <https://www.aandd.co.jp> または表示部の QR コードから閲覧できます。

3. 使用上の注意

- FJ-BT-DISP は防水・非防塵のため、内部に液体や金属などの異物が入らないようにしてください。
- スタンドは完全に立てるか、全く立てないかのどちらかにしてください。
- スタンドを立てるときは必ず両方のスタンドを立ててください。
- 手が濡れた状態で取り扱わないでください。
- 硬いものや先の尖ったものでキーを押さないでください。
- 不安定な場所に設置したり、保管したりしないでください。
- 本体の落下や衝撃には十分注意してください。

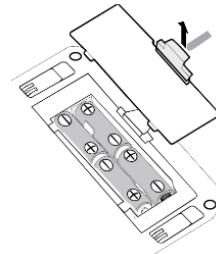


4. 電源

FJ-BT-DISP は電源に単4形乾電池(別売)と USB 給電が使用できます。

4-1. 電池の入れ方と交換方法

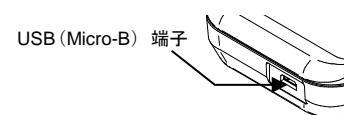
- 1) 保護カバーを外してから、電池カバーを外します。
- 2) 古い電池を全て取り外します。
- 3) 新しい単4形乾電池を極性に注意して入れてください。
- 4) 電池カバーを取り付けてから、保護カバーを取り付けてください。
 - 電池の極性(+/-)を電池収納部の表示に合わせて正しく入れてください。
 - 単4形乾電池は付属していません。別にお買い求めください。
 - 単4形乾電池電池の交換は、4個同時にまとめて行ってください。
 - 単4形乾電池を使用する場合は、使用的乾電池の使用温度範囲内で使用してください。
 - ニッケル水素電池等の二次電池を使用する場合、満充電でも電池マークの残量が最大にならない場合があります。
 - 使用するときは、必ず電池カバーを取り付けてください。
 - 異なった種類の電池、新旧の電池を混ぜて使用しないでください。
 - 電池寿命は、使用状況や周囲温度によって変わります。
 - 長期間使用しない場合や USB 給電のみで使用する場合は、電池を抜いてください。
 - 電池が入った状態で USB 給電をした場合、電池は消費されませんが電池を抜くことを推奨します。またニッケル水素電池等の二次電池の充電はできません。
 - 電池を装着する際は、一側から装着してください。+側から行うと、電極バネを破損させる可能性があります。



4-2. USB 給電

本体横の USB (Micro-B) 端子に USB ケーブルを接続して使用してください。

- USB ケーブルは付属していません。
- USB 端子からデータ転送はできません。
- すべての電源装置で動作を保証するものではありません。
- 使用する電源装置の仕様をよくご確認ください。
- 本製品から電源を取り出すことはできません。
- 電源以外の装置に接続しないでください。故障の原因になります。
- USB ケーブルを接続する際は、接続の方向を確認してまっすぐに挿入してください。
- 電源としてモバイルバッテリを使用する場合、スイッチで電源の ON/OFF が可能なモバイルバッテリを推奨します。
- モバイルバッテリのオートパワーオフが働く場合、別冊の取扱説明書を参照し、内部設定 [nb_1] にしてください。
- 内部設定 [nb_1] にした場合の使用可能時間は 10000mAh のモバイルバッテリで約 80 時間(参考値)です。
- 全てのモバイルバッテリに対する動作保証はしておりません。
- モバイルバッテリの仕様をご確認の上、ご使用ください。モバイルバッテリが原因による製品の故障は保証の対象外となります。



4. 操作キー

| 操作キー | 解説 |
|------|--|
| | ON / OFF キー 表示をオン／オフします。 接続時に長押しするとはかりの表示をオフできます。 |
| | ホールドキー 計量値を固定表示します。内部設定が [Hold_0] のときにのみ有効です。 計量値が安定しにくい物を計量するときに使用します。 各種設定時には点滅桁を右にシフトします。 注記: 内部設定の詳細は、別冊の取扱説明書を参照してください。 |
| | モードキー 計量単位を切り替えます。 各種設定時には、点滅桁の数値を+1 します。 |
| | ゼロキー 計量値がひょう量の±2%以内の場合は表示をゼロにします。範囲外の場合は計量物の質量を容器(風袋)の質量として差し引きます。 未接続時に長押しするとペアリング動作します。 注記: FJ-BT-K シリーズへのペアリング動作はできません。 |

5. ペアリング

FJ-BT-DISP は FJ-BT シリーズのはかり(本体)とのみペアリングが可能です。

- 1) ペアリングさせるはかり(本体)の電源をオンにします。
- 2) FJ-BT-DISP の [ON/OFF] キーを押して電源をオンにします。
- 3) 全点灯後、[SERIAL] 表示となります。
- 4) 接続マーク(表示部の右上)が点滅を開始するまで [ZERO] キーを長押しします。
- 5) 接続マークが点滅し、ペアリングを開始します。
- 6) ペアリングが完了すると、接続マークが点灯します。
- 7) はかり(本体)と接続状態となります。
 - 接続相手の電源が切れた場合や何らかの原因で接続が切れた場合、接続マークは消灯します。
- 8) 受信した計量データを表示します。
 - 接続マークが点灯しない場合は FJ-BT-DISP はかり(本体)の電源をオフし、再度上記の操作を繰り返してください。
 - ペアリング後は、ペアリングしたはかり(本体)を検知して自動的に接続を開始するため、一連の操作は不要です



6. 電波に関する注意事項

- 無線通信は、EYSKDN (加賀 FEI)／Bluetooth 5.0 (Bluetooth Low Energy) を使用しています。
- 本製品には、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、工事設計認証を受けた無線設備を内蔵しています。
- 本製品の使用周波数帯では、移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運営されています。
 - ・ 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局等が運用されていないことを確認してください。
 - ・ 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止し混信回避のための処置等を行ってください。



2.4 : 2.4GHz 帯を使用する無線設備を表します。
FH : 調變方式が FH-SS 方式であることを表します。
1 : 想定される与干渉距離が 10m 以下であることを表します。
—— : 全帯域を使用しかつ移動体識別装置の帯域を回避不可で有ることを表します。

- 本製品をご使用の際は、見通し距離で 10m 以下で通信を行ってください。
- 壁等の障害物がある場合といった使用環境によって通信距離は短くなります。
- Bluetooth と同じ 2.4GHz 帯の電波を使用している以下の機器の近くで使用すると、干渉を起こす可能性があります。
 - ・ 無線 LAN
 - ・ Bluetooth 搭載機器(携帯電話等)
 - ・ 電子レンジ等家電製品
- 本製品と計量器との通信は、周囲の電波環境及び機器環境により確立又は維持し難くなることがあります。
そのため、信頼性を重視するご使用には適しません。